

まち

No.23 2024 年 秋号

発行日：令和6年10月28日
発行：日本大学理工学部まちづくり工学科教室
☎03-3259-0531(学科事務室)
発行責任者：後藤 浩(教室主任)
編集担当：牟田聡子、栗本賢一
制作：株式会社 ムーンドッグ

contents

巻頭言	1
特集 まちづくり工学科6期生の「職場での活躍」	2
EUの博物館でのダイバーシティの取り組みについて	9
学部3年生・修士1年生へ「就職活動へ向けて」	11
令和6年度前期「まち」行事・イベントカレンダー	12
教職員・学生の活躍	15

巻頭言

偶然の出会いとは必然の出会い

准教授 西山孝樹



私の過去を振り返ってみると、自分自身が困っている時、悩んでいる時、そのタイミングで手を差し伸べてくれる「恩人」が不思議なことに必ず現れた。

中学の担任であった飯尾先生は毎朝、新聞記事を要約する課題を課してくれた。今も論文や原稿を書くことが多く、受験勉強では得られない基礎的な力が身についた。その後、高校の文理選択で当時の担任からは文系への進路を勧められ別の高校へ赴任されていた飯尾先生に悩みを打ち明けた。そうすると、「西山くんは理系でがんばれる。自信を持って進みなさい」間髪入れずに、アドバイスをいただいたものだから胸を張って理系の道へ進んだ。

大学1年生の入学直後、藤田先生と出会った。授業のなかでは「専門雑誌を読みなさい」とか、「技術者は歴史から失敗を学べ」といった教養の必要性も説いてくれた。しかし、翌年の時間割を見ると、藤田先生の名前が消えていたのである。退職されたのだった。しかし5年後のある日、大学院生だった私は何かの書類を提出するために他の研究室を訪ねた。その時、退職された藤田先生が訪問先の研究室へ偶然いらしたのだ。私の研究内容に耳を傾けてくれ、「それは面白い。一緒に研究をしよう」と声をかけていただいた。人生、何が起るかわからない。

まちづくり工学科では、天野先生から多くの学びを得た。助手の頃は自身が受け持つ授業はないが、「私の授業に出席して、講義を聴いてみたら」とおっしゃった。「なぜ、そんなことを言うのだろうか」と疑問に感じながら出席していた。数年後、自分が授業を担当する立場になって、ようやくその

意味が理解できた。学生の皆さんへ配布する資料の工夫、90分授業の組み立てなど、円滑に準備ができたのだ。この逸話を天野先生にしたところ、「聴いておいてよかったでしょ」とニコリ。ここまで物事を見通して、アドバイスをしてくれていたのだ。やはり、素直な心を持つことが大事だ。

現在も研究を続けられているのは、偶然の出会いがあったからである。謙虚な気持ちを忘れず、自分に驕らず、コツコツとやるべきことに打ち込んだ時だけ、誰かが手を差し伸べてくれる。先日、久しぶりに藤田先生とお会いした時、「学生さんたちへ、研究だけではなくさまざまな時間を共に過ごし、物事の見方や考え方をたくさん教えてあげなさい。今度は西山くんが手を差し伸べる番だよ」と。こんな、人生の転換点に立ち会える環境を皆さんと共有できるよう、私も日々研鑽です。



一期一会の出会いを大切に、研究活動でも互いが切磋琢磨できる雰囲気づくりを心がけています

まちづくり工学科6期生の

職場での活躍

まちづくり工学科の創設から11年、卒業生たちは「暮らしの総合デザイン」の理念を胸に、社会の第一線で活躍を続けています。広報誌『まち』の「卒業生の職場での活躍」特集も、今回で6回目を迎えました。本号では6期生の皆さんが、社会人として1年を経た今の姿をご紹介します。

6期生は、学生生活の大半をコロナ禍で過ごすという、前例のない状況に直面しました。3年次、4年次とオンラインでの学習を余儀なくされましたが、その逆境を乗り越え、見事に100%の進路決

定率を達成しました。この経験は、変化の激しい現代社会で必要とされる適応力と創造性を培う貴重な機会となりました。

現在、コロナ禍は5類感染症への移行を経て「ウィズコロナ」の時代に入りました。6期生の皆さんは、この新しい時代における働き方のパイオニアとして、それぞれの職場で大いに活躍されています。

在学生の皆さん、とくに就職活動を控えた3年生、4年生の皆さんにとって、先輩たちの経験は大きな励みとなるはずです。インターンシップへの積極的な参

加や、さまざまな業界の大手企業への内定、さらには国家公務員試験での好成績など、皆さんの努力は確実に実を結んでいます。特筆すべきは、理工学部の中で最も多くの国家公務員試験合格者を輩出していることです。これは本学科の幅広い学びが、社会のニーズに合致している証左といえるでしょう。

広報誌『まち』のバックナンバーは本学科のホームページでご覧いただけます。新しい時代に向けて歩み続けるまちづくり工学科と卒業生たちの姿を、どうぞごゆっくりとご覧ください。



まち科卒業生に聞きました。

1
どんなお仕事を
していますか？

2
お仕事での目標
はなんですか？

3
学生時代に打ち
込んだことは？

4
後輩に就活への
アドバイスを！

・卒論テーマ、修論テーマの研究室名は、在学時のものです。

北村 駿季

株式会社オオバ 東京支店区画整理部

卒論テーマ 地域活性化事業における、住民参加に関する研究(八藤後・牟田研究室)

修論テーマ 公共空間の地域特性から捉えた日常利用に関する研究—東京のしゃれた街(八藤後・牟田研究室)

好きな
「まち」

神保町

出身
高校

千葉日本大学
第一高等学校

建設
コンサル
タント



1 どんなお仕事を していますか？

私はハード整備手法である土地区画整理事業を活用したまちづくりを行っています。駅前開発や博覧会会場整備、復興まちづくり、既存市街地の再編等、時代のニーズに合ったまちづくりを実現する仕事です。

まちづくりにはさまざまなフェーズがあり、主に①上位計画と呼ばれる「市町村マスタープラン」や「立地適正化計画」等を基に土地の使い方を考えるゾーニングや街区割、②プラン実現に向けた工事や資金繰りを整理する事業計画策定、③土地の造成工事に分かります。行政や民間企業、地権者、建設会社等の関係者と調整しながら事業を進めます。

2 お仕事での目標 はなんですか？

私は現在社会人3年目です。1年目は実践的なまちづくりの基礎を学び、2年目は自身が得意とするプログラミングスキルを生かした仕事をしました。3年目は、より発展的なデジタル技術を活用したまちづくりに取り組むとともに、日々の業務の省力化を進めたいと考えています。

まちづくりには地道な仕事も多いです。しかし、いかに業務を効率化しやりたい仕事をするか。その試行錯誤もやりがいのひとつです。今後は、昨年取得した土地区画整理士と実務経験による実践的知識を基に、上司に頼らず自ら事業を推進できるようになりたいです。

3 学生時代に打ち 込んだことは？

学部4年生のときにまちづくりサークルを立ち上げ、神田神保町の古書店街の魅力を調査、発信する活動を行いました。約90店舗の古書店を巡り、それぞれの特徴を発信するSNSを運用しました。感染症拡大により対面での活動には制限がありましたが、その中でも試行錯誤して店主と話す機会を設けたり、人づてでまちのキーマンを紹介していただいたりと、泥臭く地元を知れることを心掛けました。この経験は、現在の仕事で訪れるまちで地元の方々とお話をし、そのまちの個性やその人の意見、価値観を聞くことに生かされており、貴重な経験だったと感じています。

4 後輩に就活への アドバイスを！

自分のやりたいことが決まっていれば、専門知識や技術を磨き、先輩に話を聞いて就職活動に備えれば良いです。一方、やりたいことがわからないという場合は、どういう仕事があるのか、これから先何が求められるのかを、授業や研究を通して幅広く体系的に知る必要があります。その過程で自分が少しでも興味があることを深掘りする。それを癖づけると、就職活動が始まるまでに自分の興味とやりたいことの解像度が上がります。あとは、それを実現できる業界と企業を研究し、インターンシップやOB/OG訪問を使って肌感覚を確かめ対策、応募するだけです。



駅前開発の土地区画整理事業の現地調査



地元を知るために神田のまちづくり企画に参加している様子

清水 海

建設
(建設施工)

五洋建設株式会社 東京建築支店

卒論テーマ 東京ウォーターフロントにおける都市政策の実現性評価に関する研究
一品川区を対象とした政策実績報告書の実態および空間的分布特徴の把握—(岡田・落合研究室)

好きな
「まち」

神戸市

出身
高校

長崎日本大学
高等学校



私は施工管理の仕事をしています。
いわゆる、現場監督と言われる職種になります。

この仕事では、建物を建てる上で欠かせない5つの要素を管理しています。具体的には、現場で働く人々の安全を守る安全管理、高品質な建物を実現する品質管理、期限内に工事を進める工程管理、コストを適切に管理する原価管理、そして現場周辺の環境を守る環境管理です。

日々の業務内容は建物の工程によって変わりますが、これらの要素を常に意識しながら仕事に取り組んでいます。正直に言うと、この仕事は本当にやりがいがあります！ 日々新しい課題に直面し、それを解決していく過程は、とてもエキサイティングです。

1 どんなお仕事を していますか？

現在は現場に出て、作業員の方々と直接やり取りしながら工事を進めています。今後は、この経験を生かしつつ、仮設計画や工程の調整など、より幅広い業務にチャレンジしていきたいと考えています。

また、専門性を高めるため、一級建築士と一級施工管理技士の資格取得を目指しています。仕事と資格勉強の両立は大変ですが、自分の成長のためには欠かせないと考えています。

2 お仕事での目標 はなんですか？

私の学生時代は、とくに自慢できるような大きな成果はありませんでした。しかし今振り返ると、サークル活動やアルバイトを通じて、重要なスキルを身に付けていたと感じています。サークル活動では、大会で知り合った他大学の学生との交流や、大会運営のアルバイトなど、さまざまな場面で初対面の人とコミュニケーションを取る機会が多くありました。また、接客業のアルバイトも経験し、人と話すことに慣れていきました。

これらの経験が、現在の仕事でのコミュニケーション能力に活きていると実感しています。建設現場では、さまざまな立場の人々と協力して仕事を進める必要があるため、この能力は非常に重要です。

3 学生時代に打ち 込んだことは？

最後に、就職活動を控えている後輩の皆さんへ、私からのアドバイスです。

まず、自分が興味のある分野のインターンシップには、できる限り参加してみてください。何が自分に向いているかを考えるより、実際に経験してみることが大切だと感じます。

次に、資格取得を意識することをお勧めします。就職後も必要になる資格は多いです。学生時代に取得できるものは積極的に挑戦してみてください。また、指定科目がある場合は、将来の選択肢を広げるためにも受講しておくことをお勧めします。

就活は選択肢が多いほど悩むものです。私も、やりたいことが多すぎて迷いました。でも、それは決して悪いことではありません。迷うことで自分自身についてより深く考えられるチャンスだと捉えてください。そして何より、自分を信じるのが大切です。自分を過小評価して諦めることだけはしないでください。誰にでもチャンスはあります。悩んだときは、先輩や先生方に相談してみてください。きっと良いアドバイスをもらえるはずです。

就職活動は確かに大変です。でも、皆さんなら必ず乗り越えられると信じています。自分を信じて、頑張ってください！ 皆さんの活躍を心から楽しみにしています。

4 後輩に就活への アドバイスを！



大学サークル時代の
仲間たちと

建設
(土木施工)

松本 流成

株式会社大林組 東京本店京成荒川 JV 工事事務所

卒論テーマ SfM および LiDAR による薄肉構造部材の断面計測
—通信鉄塔部材の三次元点群モデルを用いて— (仲村研究室)

好きな
「まち」

さいたま市

出身
高校

さいたま市立
大宮北高校



1 どんなお仕事を していますか？

私は、鉄道工事現場で施工管理の仕事をしています。工事現場にはさまざまな職種の作業員が従事しています。作業間の調整や工程を検討し、工事が安全かつ円滑に進むように管理することが施工管理の仕事です。その中でも私は、新設の躯体を構築するための土留工事を担当しています。土留工事は、詳細な設計図がないことが多く、土圧の計算や材料の選定等を担当者が判断する必要があります。日々勉強しながら、現場で最適な判断ができるよう努めています。

2 お仕事での目標 はなんですか？

私の目標は、大規模な現場を任される所長になることです。そのためには、技術力を身に付ける必要があります。現場では、作業員から質問を受けることや発注者から説明を求められる機会が多くあります。今は、まだ経験が浅い私に代わり、上司が説明してくれることが多いです。資格の勉強や現場での経験を積み、確かな知識で納得のいく説明をできるような技術者になりたいです。

4 後輩に就活への アドバイスを！

動き出すのは早いに越したことはありません。私は学生時代にあまり真面目に勉強をしてきたタイプではありませんでしたが、就職活動だけは力を入れて取り組みました。就職についてイメージがわいていなかったのが、学科から紹介された企業のインターンシップに数多く参加しました。参加すると自分に向いている業界が見えてきます。就職後に思っていた業務内容と違ったと後悔するともったいないので、まち科のメリットを最大限に生かして、幅広く業界を見てみることをお勧めします。



3 学生時代に打ち 込んだことは？

学生時代は、アルバイトと遊びに全力な毎日でした。振り返るとすごく楽しい日々でしたが、少し後悔していることは、勉強をほとんどしなかったことです。社会人になると仕事をするのに必死で、資格等の勉強に割く時間がありません。ゼネコン業界では、「構造力学」の授業で習う計算をする機会が多くありますが、ほとんど覚えていなかったのが一から学び直しています。自分が働く業界に必要な勉強は少しずつでも進めておけば良かったなと思っています。

運輸

生水出 潤一郎

東日本高速道路株式会社 関東支社長野管理事務所

卒論テーマ 神奈川の継立村における集落変容の実態に関する研究
(下鶴間宿と厚木宿を対象として)(押田研究室)

好きな
「まち」

佐久市

出身
高校

日本大学
藤沢高等学校

発注者という公的な立場で、高速道路の建設や維持・管理・運営を行っています。例えば、橋梁や舗装等の土木構造物に変状が生じた場合、コンサルタントさんに設計のお願いをしたり、ゼネコンさんに工事をお願いします。お願いするだけではなく、修繕方法の思想整理、技術検討、予算管理や安全管理等、事業全体のマネジメントに携われます。ほかにも、渋滞対策を考案したり、防災拠点としてSA・PAを整備したり、MaaSの一環であるモビリティハブの試行検証等、幅広い業務が存在し、社会的意義の大きな仕事に携わりやすいことが特徴です。

1 どんなお仕事を していますか？

私は「人々の出会いや再会のきっかけをつくる」を目的に、企業を選びました。人々の出会いや再会には必ず道が必要であるため、交通インフラ系を志し、その中でも高速道路は車社会である地方部にさらなる可能性があると考え志望しました。そのため弊社で経験を積み重ね、サービスエリアやパーキングエリアをひとつの経由地ではなく、明確な目的地となるよう整備したり、地域連携とも絡めたイベント等の企画運営を行いたいと考えています。

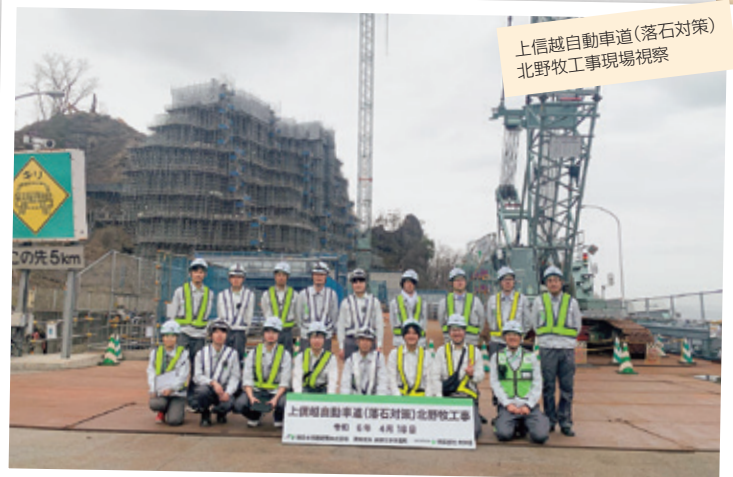
2 お仕事での目標 はなんですか？

日本国内での
チャリティーイベント



3 学生時代に打ち 込んだことは？

私は大学2年次より入団した、ラオス教育支援団体での活動に打ち込みました。コロナ禍により、学校建設に必要な支援金を集めること(チャリティーイベント)が困難となり、クラウドファンディングに挑戦しました。私は反対派のメンバーやコロナ禍で士気の下がったメンバーを巻き込むため「毎週、支援状況や達成可能性を皆へ向けプレゼンする」「メンバーにさまざまな表彰をする」ことを実行しました。その結果、少しずつ全体の士気が上がり、ありがたいことに目標を大きく上回る250万円もの支援金を得ることができました。



4 後輩に就活への アドバイスを！

弊社社員の共有点は、コミュニケーション能力に長けている点です。トークスキルといったテクニックという話ではなく、相手の立場に立った会話ができる等、人として大切なことを外さない方が多い印象です。また、まち科は幅広く学べるが故に専門知識がないと言われますが、弊社においては若い内からそこまで重要視していないようです。教育熱心で技術力向上の研修制度が充実していますし、上司や先輩社員も丁寧に教えてくださいます。

その他、仕事の9割前後がデスクワークですので、意識的に現場へ行く姿勢が必要です。転勤ありきなのは向き不向きがあるかと思います。福利厚生やワークライフバランスはかなりしっかりしています。

人生の大きな方向感を決めることができる就職活動、周囲の教員方や先輩方はきっと皆さんの大きな力になってくれるはずです。心から応援しています。

北岡 侑将

公務員
(土木職)



国土交通省 関東地方整備局常総国道事務所工務課

卒論テーマ 日本橋上空の高速道路高架橋撤去による日本橋川の流況改善と
沿川浸水リスク低減の推算(後藤研究室)

好きな
「まち」

霞が関

出身
高校

朋優学院
高等学校

1 どんなお仕事を していますか？

関東地方整備局では基本的に、関東甲信の範囲内で2年おきに異動します。仕事は課によってさまざまですが、3年目の私が経験した計画課と工務課について紹介します。道路は、大きく基本計画、測量・地質調査、予備・詳細設計、用地買収、道路工事の流れで完成します。計画課では主に予備・詳細設計、工務課では道路工事の発注の手続き、資料作成を行います。入札等によって公正に受注者を選定し、契約した受注者と打ち合わせを重ね、共に道路供用に向けて計画、工事を進めていきます。まだ経験はありませんが、有事の際には緊急災害対策派遣隊として被災地に応援に行くこともあります。

事務所の前で



ご褒美
草津温泉旅行

2 お仕事での目標 はなんですか？

仕事における目標は、ひとつひとつの業務を確実に遂行することです。整備局の出先機関のひとつである国道事務所では、道路の供用という大きな目標と、公告などの発注スケジュールや内部審査など細かい目標があります。ひとつひとつの目標(期限)を意識しつつも、焦らず、常に冷静でいたいと思っています。そのために、先を見据え、適切に優先順位をつけることが重要だと感じました。職場には優秀な方がたくさんいるので、仕事の仕方を参考に成長したいです。いつか、より良い日本の国づくりのために判断できるよう、今は少しずつ力をつけていくことが目標です。

3 学生時代に打ち 込んだことは？

大学で一番打ち込んだことは勉強です。と、就活の面接ではアピールしました。とはいえ大学の授業以外はアルバイトもしていましたし、しっかり遊んでいました。メリハリをつけて、やるべきときに集中して行うことが大切だと思います。勉強を頑張るコツは、私の場合、環境作りでした。友人と最前列で授業を受け、おのおの講義が終わった後に図書館の会議室で合流し、その日中に課題を終わらせることをルーティンにしていました。そのまま遊ぶこともありましたが、このようなご褒美を用意して、講義後の勉強モードのまま課題、復習をすると楽です。

4 後輩に就活への アドバイスを！

教養試験は科目数が多く、取捨選択も戦略だと思います。専門試験は講義のほかに、米田本、YouTubeを使って勉強しました。また、アプリを使って問題を出題し合いました。楽しく勉強できるのでお勧めです。論文試験は総合職工学、一般職土木の場合、国土交通白書に目を通すと良いです。私の年のテーマはリニア中央新幹線を選択でき、国土交通白書で読んだスーパーメガリージョンについて記載すると高得点をもらえました。テーマについてキーワードを連想できるようになると良いです。面接試験は就職活動が直接練習になります。イメトレと、成功体験による自信が鍵です。公務員試験はスケジュールが遅く、長い戦いになり大変ですが、目標に向けて頑張ってください！ 応援しています。

伊藤 みなみ

公務員
(土木職)

埼玉県 県土整備部川越県土整備事務所

卒論テーマ 大宮公園にみるアーバンリゾートの滞在行動に関する基礎的研究
(天野・西山研究室)

好きな
「まち」 日進町
(さいたま市北区)

出身
高校 大妻中野
高等学校



自転車専用通行帯
(主要地方道所沢狭山線/狭山市)



1 どんなお仕事を していますか？

埼玉県庁の出先である川越県土整備事務所の道路担当に所属し、主に道路の維持管理や、交差点、歩道等の改築事業に携わっています。中でも、とくに担当者として自転車通行空間の整備を担っています。近年では自転車利用者による交通事故の割合が増加しており、歩行者をはじめ、道路利用者の安全対策が求められます。そこで、誰もが安心して快適に通行できる地域社会を実現するために、市町村や交通管理者などの関係機関と連携しながら、自転車通行空間の整備を進めています。

2 お仕事での目標 はなんですか？

入庁して3年目になりますが、職務を遂行する上で重要となるのは「他機関や地域住民との連携」と考えます。組織の方針が定まっていますが、市町村や交通管理者、地域住民や自治会等の理解を得られなければ、事業の実現は困難です。関係者と連携を密にし、職務に取り組むことが重視されます。また、職場内においても個人の力ではなくチームの協力があるからこそ成果を上げることができます。私が所属している職場は、昼休みにバレーボールをする等、明るい雰囲気の中で、かつさまざまな視点を持った人がいる多様性のある職場です。同僚や上司と協力しながら、まちづくりにおける「協働」を念頭に、県民が誇れる愛着のある地域づくりをしていきたいと考えます。

3 学生時代に打ち 込んだことは？

私はボーイスカウト活動を19年間続けており、学生時代に何事にも挑戦する力を培いました。最高章である「富士章」の取得を目標に積極的に活動し、取得条件に求められる野営・救急・炊事等に関する高度な知識と技術を各項目に計画を立て、自分の力で挑み、「富士章」を取得することができました。その後は指導者を任せられ、スカウトとコミュニケーションを取りながら、緑の羽根募金活動や、コロナ禍の自粛期間中は野営活動におけるロープ結びの講習会等を実施しました。

緑の羽根募金活動
(ボーイスカウトさいたま第8団)



4 後輩に就活への アドバイスを！

インターンシップは職場の雰囲気がわかるため、参加をお勧めします。良くも悪くも志望している職種のイメージが具体化され、未来の自分の働き方が想像しやすくなると思います。また、教養試験を廃止し、専門試験のみとしている自治体が増えています。埼玉県もそのひとつで、大学で学んだ専門知識を活かして試験に臨むことができます。また、面接試験の配点が高く、人物重視の採用を行っているのも特徴です。公務員とは別の職種志望の方も受験しやすいのではないかと思います。ぜひ、就職先の視野を広げて「理想の働き像」に近づくチャンスを掴んでいただければ幸いです。

2023年8月1日から31日の期間、日本大学海外派遣研究（短期B）を受けてイタリア・スペイン・フランスの博物館（美術館を含む）のダイバーシティ（多様性）について調査を実施したので、その一部を紹介したい。なお、EUの博物館ではバリアフリーやユニバーサルデザインという言葉は使わずアクセシブルを用いているので、本稿もそれにならうこととする。

■ 博物館のダイバーシティの取り組み

2006年の国連・障害者権利条約以降、EU各国ではダイバーシティの取り組みが活発だが、とくに博物館では2022年、ICOM国際博物館会議（プラハ大会）の臨時総会で新しい博物館定義の提案が承認され、ダイバーシティが明記されたことで一層進んでいる。日本では、ハートビル法（1994年）・交通バリアフリー法（2000年）により、まちや建物での配慮は進んだが、文化・芸術の楽しみ方にまでは及んでおらず、EUでの取り組みは参考になる。

私が訪問した各博物館のアクセシブル担当者（以下、担当者）の第一声は「なぜ、アクセシブルの先進国の日本から、わざわざ来たのか？」である。確かに、車いす用トイレや段差解消、授乳室の整備などをみると日本は最先端だが、展示方法や鑑賞方法など文化・芸術面では劣っている。

■ 博物館でのダイバーシティの考え・体制

博物館のダイバーシティは教育普及部が担当が、その担当者の意志が館全体に影響していることがうかがえた。「校外学習でクラスメートと一緒に来た視覚障がい児が、独りポツンと皆から離れて寂しそうにしていたら、晴眼者のクラスメートや先生は、二度とここに来たいとは思わないでしょう。博物館は学びや文化のスタート地点です。そこに立てない人々がいることは悲しいことです」（アンドレア・ゴリ氏、ガリレオ博物館）。このようなエピソードは枚挙にいとまはなく、各館の担当者は皆、強い使命感を持ち取り組んでいる。

担当者が最も多い館はシテ科学産業博物館（フランス）で、障がい種別に10人の専門の担当者がある。新人は対応方法が定型化している車いす使用者などの肢体不自由者を担当し、視覚・聴覚障がい者は中堅が担当する。認知症者や発達障がい者は鑑賞の効果測定が難しく、鑑賞中の突発事態も多く臨機応変の対応が必要なためベテランが担当する。

■ コロナ禍での工夫

コロナ禍の活動制限期間を利用し、多くの博物館でさまざまな取り組みがなされた。プラド美術館では、すべての職員を対象にダイバーシティの研修を行った。それにはチケット係、清掃員、警備員なども含んでいた。障がい者が来館し、最初に経験するのが、セキュリティゲートをくぐり身体検査・手荷物検査を受けることである。そのため警備員の適切な対応は重要である（写真1）。

閉館期間に展示方法の工夫（すべての作品を車いすのアイレベルに合わせて下げるなど）だけでなく、パンフレットや配布物への工夫もあった。ウフィツィ美術館では、館内で発達障が

い児が飽きないように、展示作品にちなんだパズルなどが入ったアクティビティ・バッグを作っている。これは障がい児の保護者が、連れてきた子どもに煩わされずにゆっくり楽しめる工夫である。

■ 展示物の工夫

作品の種類により展示の工夫はさまざまであるが、総じて一つの感覚器によらない五感を使った鑑賞を目指している。視覚だけでなく聴覚や触覚、嗅覚など、同時に複数の感覚器を使って楽しむ（写真2）。できる限り重要な作品や資料は実物の触察展示とする館が多い（写真3）。最も優先されるのが来館者の安全であり、そのため実物の触察が難しい場合には、復元品の触察となる。復元品は作品ができた当時の制作工程や筆遣いやノミ遣い（彫り）、原材料まで忠実に再現するが、これには技術を持った作家の協力が必須である（シルビア・カトーネ氏、フィレンツェ中世邸宅博物館）。絵画のような平面作品では浮き彫り作品などがある（写真4）。型押しした浅浮き彫り手法だけでなく、作品の遠近感を考えた深浮き彫り手法は、フランチェスコ・カヴァッツァ盲人協会内の触覚美術館・アンテロス美術館のロレッタ・セッキ氏が高名で、EUの美術館の担当者がここで深浮き彫り手法の制作工程及び解説方法を学んでいる。

すべての作品を障がい者対応にできれば良いが、難しい場合には作品を選ぶこととなる。視覚障がい者には、日常生活に密着した身近なものを取り上げると理解が容易で鑑賞しやすい（レーザーをかいくぐって秘密基地に潜入するスパイ体験コーナーはスパイ活動が身近でないため不評であった（シテ科学産業博物館））。発達障がい者や認知症者の場合には、直感的に理解できる作品や没入感のある作品が好まれる。この「直感的理解」や「没入感」はまちづくりでもキーワードになる。

■ センサリールーム（落ち着き部屋）の工夫

博物館を訪れた障がい者が気持ちを高ぶらせることはよくある。そのための「センサリールーム（落ち着き部屋）」を設けたいが、現実問題として既存の館では空間がなく、不可能である。そこでEUの博物館では、一般の休憩室の一部をそのように使うことを館内で申し合わせたり、館内で暗く落ち着いたコーナーがあれば積極的に転用している。子どもたちが興奮するような所から近い場所・職員の目の届く場所に設けるのがポイントである（写真5）。

このような工夫は、飛行場やサッカースタジアムなど、普段行き慣れない公共施設には必要である。

■ IT技術を用いた工夫

来館できない院内学級の児童や遠方の児童、海外の研究者のために、見学者が遠隔操作できる自律型ロボットを用いた見学を導入する工夫もある（フィレンツェ大学付属地質学・古生物学博物館）。海外の研究者はこれを用いて事前調査を行うことで、効率の良い訪問ができる。

多様な来館者に対応し携帯電話で音声・字幕・多言語ガイド



1 復元品を触察する
触り過ぎてツルツルしてくると、清掃員が「替え時では？」と提案してくることもある。職員研修の効果の現れである(スペイン考古学博物館)

2 五感を使った鑑賞
中庭吹抜け部に展示された彫刻を視覚以外の五感(風や光や音を感じる五感)を使って鑑賞する(バルジェロ美術館)

3 実物を鑑賞する
マンモスの頭蓋骨の化石の後方から手を入れて脳みその大きさを体感する(フィレンツェ大学付属地質学・古生物学博物館)

4 絵画を深浮き彫り手法で表現
遠近感を考慮して深さの調整を行う。細かな描写は省略し理解の促進を図る(アンテロス美術館)

5 センサリールーム(落ち着き部屋)
回廊型の休憩スペースの一部を障がい者の休憩スペースとする(ブラド美術館)

6 視覚障がい者が働く宝くじ売り場
宝くじ売り場のボックスには障がい者が座り、くじや雑貨品を販売している(マドリッド)

7 遊び心のある信号機
次の信号はどのようになっているのか、楽しみにまちを散策する(マドリッド)

をするソフトウェア「ナビレンス (NaviLens)」は、日本での導入実績は少ないが、その自在性から数年以内に日本の公共施設の標準仕様のガイドシステムになると考える。博物館内では展示物を台車で慎重に運搬移動する関係でわずかな凹凸も嫌うため、点字ブロックなどは敷設できない。そこで、このナビレンスで障がい者の誘導をしている。

ティッセン＝ボルネミッサス美術館では、館内にとどまらず周辺地域(駅や店舗)とのシームレスな連携・案内を模索している。

■「まち」でみるダイバーシティへの取り組み

スペイン・マドリッドでの取り組みをいくつか紹介する。マドリッドでは非常に多くの「宝くじ売り場」を目にする。これは ONCE (オンセ) 視覚障がい者協会が運営する宝くじ売り場である(写真6)。日本でも宝くじの収益の一部が障がい者団体に寄付されるが、ここでは自分たちで運営しており、売り場では多くの障がい者が雇用されている。実は宝くじ売り場は障がい者に適した労働環境の一つである。自宅付近で働けるうえ、小さな空間のため身体を動かす労力を最小限にできる。

美術館通り (Paseo del Arte) の観光案内所でもらえるマドリッド・アクセシブル・ガイドブックでは、各博物館でどのようなバリアがあるのか(バリアフリーの状況ではなく、どのようなバリアがあるのか)を示している。その場所での施設側の環境・設備・ソフトサービス面の対応状況を提示し、それらを踏まえて来訪者が自分自身の身体能力や家族などの支援状況を加味して自分で判断し来訪している。自己選択・自己決定・自己責任という、障がい者の暮らしの原則が徹底している。

横断歩道の信号機にも注目したい。「止まれ」は赤、「横断可」は青というのは変わらないが、その中に描かれている人はさまざまである(写真7)。女性と男性が手を繋いでいたり、女性同士だったり一人のものもある。ダイバーシティを考えた

遊び心である。「誰にも気づいてもらえなくても結構。少しでも誰かの安全・安心に貢献できれば良い」と語ってくれているように感じた。

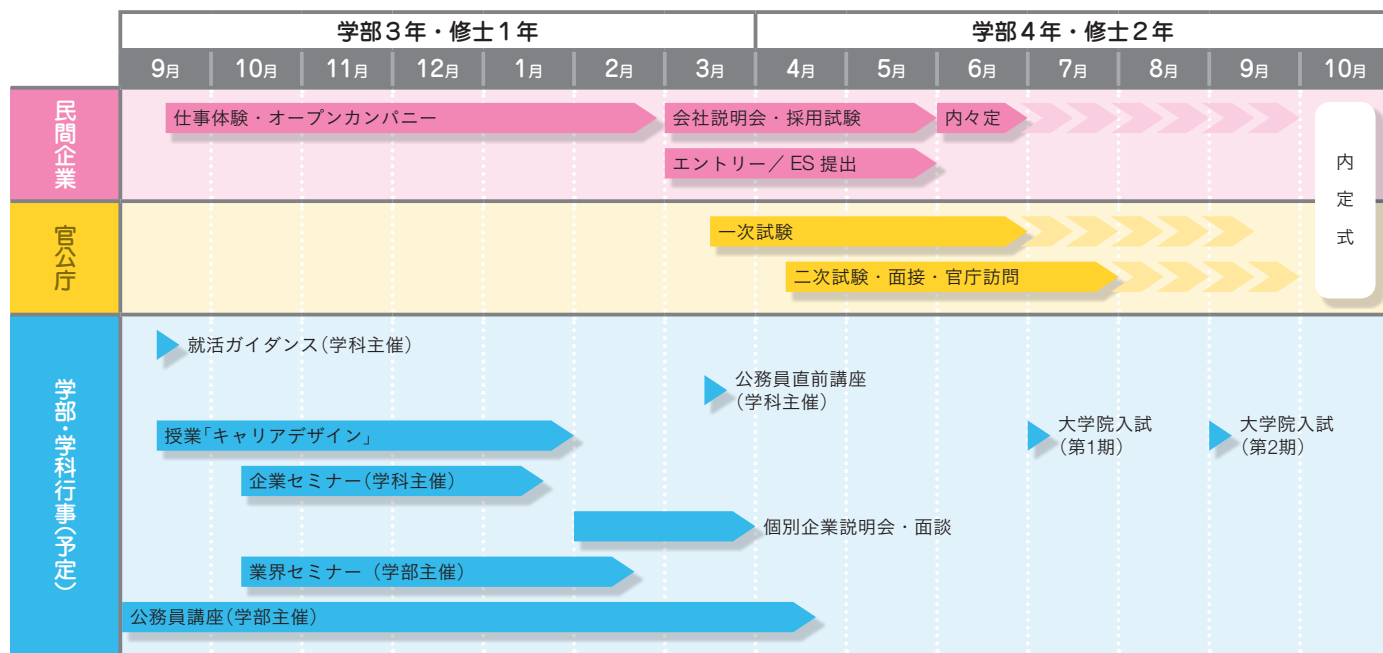
■ 最後に

以上に述べた博物館での知見は、館にとどまらず広く他の建物やまちに活かせる内容である。今後のまちづくりに携わる者の創意工夫に期待したい。

この海外派遣研究では在イタリア・在スペイン・在フランスの日本大使館及びスペイン政府観光局に事前に情報提供の支援を頂いた。

また、イタリアでは、フィレンツェ大学付属地質学・古生物学博物館、センブリチ公園(バーバラ・モンテッキ先生)、アルチエトリ天文台(アレッサンドラ・ザナッツィ先生)、ウフィツィ美術館(シルビア・バルラッキ先生)、マリノ・マリーニ美術館(シルビア・カロン先生)、ガリレオ博物館(アンドレア・ゴリ先生)、フィレンツェ国立考古学博物館(マリオ・ロッツ先生)、ドゥオーモ美術館(リタ・フェデリ先生)、フランチェスコ・カヴァッツァ盲人協会内の触覚美術館・アンテロス美術館(ロレッタ・セッキ先生)、バルジェロ美術館及びフィレンツェ中世邸宅博物館(シルビア・カトーネ先生)、イタリア盲人協会(UICI)プラトー支部会長、イタリア盲人協会(UICI)フィレンツェ支部会長。スペインでは、スペイン考古学博物館(ヘスス・ルビオ先生)、ティッセン＝ボルネミッサ美術館(アルベルト・ガモネダ先生)、ブラド美術館(サンティアゴ・ゴンザレス先生)。フランスでは、ボンビドゥー・センター(クロエ・クエンティン先生)、シテ科学産業博物館(ジェラルディーヌ・ドゥラフォージ先生)に教えを頂いた。

ここに記して深謝する。



キャリア支援・就職活動の概略スケジュール

就職活動はみなさんの今後を左右する大切な機会です。この機に将来について真剣に考え、悩み、自分の道を切り拓いてください。

1. まずはスケジュールを確認しよう

みなさんが対象である2026年（2025年度）修了・卒業者の就活スケジュールについては、本年度までのスケジュールを踏襲する方針が政府より示されています。しかし、実際には多くの企業がこれよりも早い日程で実質的な選考を進めることが想定されます。夏季インターンシップに参加した際に、早期選考（インターンシップ選考など）を勧められた人もいます。決して焦る必要はありませんが、さまざまな業界や業種を知った上で、自分の志望を固めてください。そ

のことがまちづくり工学を学ぶみなさんの武器となり得ます。

公務員試験については国家公務員採用情報 NAVI (<http://www.jinji.go.jp/saiyo/saiyo.htm>) や公務員試験情報こむいん (<http://comin.tank.jp/>)、各自治体のホームページ等を頻繁に確認して情報入手しましょう。

本学大学院入試は、例年7月初旬（推薦・一般第1期）、9月上旬（一般第2期）、3月（一般第3期）に行われます。研究活動を通じて人間力を高め、自分の可能性を広げるためにも大学院進学を第一に考えましょう。

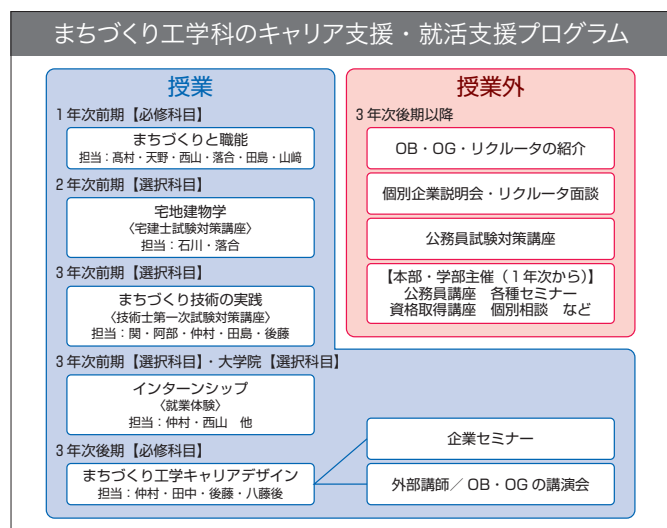
2. 始動しよう

まちづくり工学科ではさまざまなキャリア支援プログラムを展開してきました。その集大成として、後期月曜5時限目に必修科目「まちづくり工学キャリアデザイン」を開講します。今後のキャリアを形成していくための具体的な情報をみなさんに提供し、具体的な進路を考え、対策を進めてもらいます。しっかり取り組んでいきましょう。

3. 情報収集しよう！

・まちづくり工学科から発信する情報を活用しよう！

まちづくり工学科独自の就職活動支援サイトは、夏季インターンシップでも活用してもらいました。今後も各種情報（仕事体験・オープンカンパニー・セミナー・説明会などの企業や団体によるイベント開催情報、OB/OG・リクルータ提供情報、求人情報（学校推薦・自由応募）の入手や、まちづくり工学科の先輩たちが残してくれた貴重な就職体験記・公務員試験合格体験記が閲覧できます。また、就職全般



／公務員メーリングリストでもさまざまな情報を発信していきます。

・まち科や大学主催の行事を活用しよう！

「まちづくり工学キャリアデザイン」の中で「就職活動ガイダンス」と「企業セミナー」、授業外に「企業別説明会・面談」「公務員1次試験・面接対策講座」を開催する予定です。とくに「企業セミナー」は、まちづくり工学専攻・まちづくり工学科の学生のために開催する学科主催の対面セミナーです。各社に勤務する本学 OB/OG・リクルーターや人事担当の方が、業界・業種・職種などを紹介、質問にも個別に対応していただきます。学外のセミナーと異なり、少人数形式でじっくり情報収集ができます。パンフレット、Web、SNSでは入手できない、みなさんが本当に必要とする情報を得る

チャンスです。また、本部や学部が主催する「公務員講座」「業界セミナー」なども多数開催予定です。大学で開催する行事では、参加企業・団体等がみなさんを過度に勧誘することとは決してありません。安心して積極的に参加してください。詳細は、まち科就活支援サイト、Classroom、まち科掲示板、メーリングリストで案内します。

4. 授業について

就活に気をとられ過ぎて授業をサボってばかりでは本末転倒です。大学は就職予備校ではありません。みなさんが最優先すべきことは大学での勉強であることを決して忘れずに。

われわれ教員はできる限りみなさんをサポートしていきます。相談などあれば遠慮なくどうぞ。

まちづくり工学科就職活動支援サイト

NU アカウントでログイン後に、以下の URL もしくは QR コードでまち科就活サイトへアクセスしよう！

まちづくり工学科の教員及び学生のみ閲覧可能

<https://sites.google.com/nihon-u.ac.jp/machicarrier/%E3%83%9B%E3%83%BC%E3%83%A0>



令和6年度前期 “まち” 行事・イベントカレンダー

3/25 月

卒業式（学位伝達式）
（駿河台キャンパス 1号館143教室 午前11時開始）



岡田・田島研究室



押田研究室



落合研究室



小木曽研究室



仲村研究室



西山・天野研究室

4/2火 - 5金 前期ガイダンス

〈教室主任〉 後藤 浩

〈担任〉 1年生 西山 孝樹、田島 洋輔、栗本賢一
2年生 田中 賢、牟田 聡子
3年生 仲村 成貴、山崎 晋
4年生 依田 光正、押田 佳子、落合 正行
大学院 阿部 貴弘

〈就職〉 仲村 成貴、後藤 浩、田中 賢、八藤後 猛

〈広報〉 岡田 智秀



1年生ガイダンスの様子



集合写真

4/6土 新入生歓迎式（船橋キャンパス 理工スポーツホール）

4/8月 入学式（日本武道館）

4/9火 前期授業開始



都市地域デザイン演習

6/23日 オープンキャンパス駿河台（駿河台キ ャンパス タワー・スコラ S404教室）

まち科ブース来場者数： 703名

理工学部来場者数：2,244名



6/29土 後援会父母面談会（駿河台キ ャンパス タワー・スコラ S403・ S404・S405教室）

7/13土 令和6年度第1回修士論文審査会、 博士論文審査会（駿河台キャンパス タワー・スコラ S204教室）

氏名	発表タイトル
(博士前期課程2年生)	
青木 健	太陽光発電設備に関わる景観マネジメント手法に関する研究—静岡県内の取組みを事例として—
石田 愛奈	長野県軽井沢町における犬同伴型ペットツーリズムの現状に関する研究
小野寺 亮太	木質バイオマス発電施設を中心とした循環型地域づくりに関する研究
境野 哲美	隅田川の防潮堤及びテラス護岸の景観整備に関する研究
鈴木 彩加	東京都内の劇場・ホール集積エリアの特性に関する研究
鈴木 杏子	社会貢献活動を通して見た社会インフラとしての寺院の役割に関する研究
戸塚 夏萌	水災害を低減させる小規模洪水対策施設の提案
三浦 靖貴	自動車の車窓からみた海景鑑賞の魅力に関する研究—千葉県房総半島の海岸線を対象として—
安田 有希	文化財庭園における保存活用のあり方に関する研究—六義園の維持管理実態・空間変容に着目して—
(博士後期課程)	
桑波田 謙	平滑な路面環境下における視覚障害者誘導システム構築
秋元 美咲	歩行補助つえを用いた歩行者と歩道路面に関する研究

7/26 金 『まちづくりワークショップⅡ』 成果発表会

この演習は3年生向けの実践的課題で、本年度は東京都青梅市の御嵩・沢井地区を対象とした次世代型まちづくりに取り組みました。具体的には、安全で住みやすいコンパクトなまちの実現を目指し、学生たちは市役所職員へのヒアリングや住民とのワークショップを通じて、まちづくりの合意形成プロセスを学びました。7月26日（金）に最終発表会を市役所職員も交えて実施し、学生たちは地域の特性を活かした活性化策など、具体的な提案を実践的に展開する機会を得ました。



8/3 土 - 4 日 オープンキャンパス船橋 (船橋キャンパス)

まち科ブース来場者数：1日目 634名、2日目 691名
理工学部来場者数：1日目 3,129名、2日目 3,240名



8/24 土 後援会地方父母面談会

宮城会場（牟田聡子） 2組
新潟会場（田中 賢） 2組
福岡会場（栗本賢一） 1組

9/27 金 9月卒業学位伝達式

まちづくり工学科卒業生：3名

後援会役員（父母役員）※敬称略

1年 望月 亮作 2年 澁川 剛史 3年 松永 勝也 大学院 三浦 邦明

学会・協会等の受賞、テレビ放映や新聞・雑誌に掲載された記事、書籍の出版など、本学科の教職員・学生の活躍を紹介します。

〔受賞〕

■ 教授 阿部貴弘

令和6年度土木学会土木史研究発表会 優秀講演賞（近世以前研究部門）

対象：濠及び掘割に着目した近世城下町の類型化の試み

受賞年月日：2024年6月23日

■ 准教授 西山孝樹

令和6年度土木学会土木史研究発表会 優秀講演賞（一般）

対象：大畑才蔵に関する一次史料の再整理とそのなかで示された評価

受賞年月日：2024年6月23日

■ 4年（受賞当時）稲垣理紗

（指導教員 仲村成貴）

第51回土木学会関東支部技術研究発表会 優秀発表者賞

対象：杭体の損傷モニタリングに向けた実験的検討—光ファイバーによるひずみ計測—

受賞年月日：2024年3月5日

■ 4年（受賞当時）山上瑛理

（指導教員 仲村成貴）

第51回土木学会関東支部技術研究発表会 優秀発表者賞

対象：市区町村が管理する道路橋における定期点検と耐震対策の進捗状況に関する調査—全国道路点検データを活用して—

受賞年月日：2024年3月5日



〔講演等〕

■ 教授 阿部貴弘

歴史に学ぶまちづくり

主催：岳南広域都市計画担当者連絡協議会 初任者研修会

開催年月日：2024年7月25日

■ 教授 岡田智秀

職員景観研修会「景観計画における事前協議の効果と行政・住民協働の景観まちづくり事例」（講師）

主催：宇都宮市

開催年月日：2024年3月14日

第9回 川の景観まちづくり講演会「新河岸川流域の川まちづくりの現状評価と展望」（講師）

主催：新河岸川広域景観連絡会

開催年月日：2024年3月17日

景観形成と環境創出研修（科目：景観配慮の基礎知識（デザイン編））（講師）

主催：静岡県

開催年月日：2024年6月28日

荒川区景観まちづくり塾・講習会「荒川区景観まちづくり塾のあゆみと学びの特色」（講師）

主催：荒川区

開催年月日：2024年8月31日

■ 准教授 押田佳子

令和6年度社叢学会シンポジウム 都市公園と社叢「寛永寺と上野恩賜公園—内国勸業博覧会開催にみる公園としての発展」

主催：NPO 法人社叢学会

開催年月日：2024年6月22日

■ 准教授 落合正行

セミナー「空き家を活用して、田舎暮らしを始めてみませんか？」

主催：株式会社リアルエステート

開催年月日：2024年8月24日

■ 准教授 西山孝樹

道の文化講座第3回「道の文化」講演会「『徳川実紀』にみる江戸幕府の道路行政政策」

主催：一般財団法人日本みち研究所

開催年月日：2024年7月11日

中山道倉賀野宿「太鼓橋欄干石」移築記念講演会「徳川幕府による江戸時代前中期の架橋政策」

主催：倉賀野宿の会、倉賀野小学校生涯学習推進員、倉賀野公民館共催事業

開催年月日：2024年9月15日

■ 助教 田島洋輔

出張講義「再生可能エネルギーを中心とした持続可能なまちづくり」（講師）

主催：昭和鉄道高等学校

開催年月日：2024年6月19日

埼玉県久喜市・大学生と考える高校生環境ワークショップ～気候変動と身近な環境問題を考える～（コーディネーター）

主催：埼玉県久喜市

開催年月日：2024年6月16日（第1回）、7月21日（第2回）、9月22日（第3回）

■ 助教 栗本賢一

職業人の話を聞く会「まちづくりってなんだろう」

主催：三鷹の森学園三鷹市立第三中学校

開催年月日：2024年9月21日

〔依頼原稿〕

■ 教授 阿部貴弘

復興橋梁 聖橋

掲載誌：『コンクリート工学』Vol.61, No.10, pp.822-823（日本コンクリート工学会）

発行年月日：2023年10月1日

ダムに期待される新たな役割～観光資源としてのダム～

掲載誌：『月刊 コンクリートテクノ』Vol.42, No.10, pp.33-39（セメント新聞社）

発行年月日：2023年10月1日

近現代土木ツアー ～インフラツーリズムの展開～

掲載誌：『月刊 文化財』No.728, pp.27-28（第一法規）

発行年月日：2024年5月1日

■ 教授 岡田智秀

倉庫を生かしたウォーターフロントのまちづくり

掲載誌：『月刊 不動産流通』（不動産流通研究所）

発行年月日：2024年4月5日

〔新聞に掲載〕

■ 教授 岡田智秀

読売新聞（北総・佐倉・八千代統合版）「印旛沼～東京湾の流域 PR『千葉うみさとライン』プロジェクト始動」

掲載年月日：2024年3月22日

■ 准教授 押田佳子

中外日報「社叢学会を振り返る③『寛永寺と上野恩賜公園』」

掲載年月日：2024年7月12日

〔その他〕

■ 4年 石井麻翔

フットゴルフアジアカップ2024 日本代表メンバー

開催地：ザ・エルスクラブ・デサルコースト・パレーコース（ジョホール・バル、マレーシア）

日程：2024年9月24-27日

随時情報を牟田・栗本へメールでお寄せください。なお、本年度の学会等での発表は、次号（3月発行予定）にまとめて掲載します。

新任教員の紹介

このたび着任いたしました栗本賢一と申します。本学科の博士後期課程第一号修士として、母校で教壇に立てる機会を得られたことは、私にとって大きな喜びであり、身の引き締まる思いです。

私の専門は都市デザインと都市情報学です。実務経験を通じて培った知見を活かし、地域の個性を大切にしながら、持続可能なまちづくりの実現に情熱を注いでいます。例えば、最新のデータ分析技術を駆使して地場産業の立地特性を解明し、その結果を都市計画に反映させることで、伝統と革新が調和する、効率的で魅力的な都市空間の創出に取り組んでいます。学生みなさんには、デザイン思考と情報リテラシーを磨きながら、

栗本賢一 助教



「まち」を多角的に捉える視点を身につけていた
だきたいと考えています。みなさんの柔軟な発想
力と、これから培う専門知識は、未来のまちづく
りに不可欠です。共に考え、議論し、時には現場
に足を運び、社会に新たな価値を生み出してい
く—このような実践的かつ創造的な学びのプロセスに、みなさんと共に取
り組めることを楽しみにしています。

これからみなさんと共に学び、成長できることを心から楽しみにして
います。どうぞよろしくお願いいたします。

退職のご挨拶

私の前職は UR 都市機構と UR リンケージです。当時は実務で実学を
しながら学術研究を継続していました。その中で平成27年に本学科のグリー
ンランドスケープⅡを、次年度に都市計画Ⅱ等の非常勤講師をさせて頂
いたことがスタートとなります。次年度に専任教員の教授（都市計画・公
園緑地）として着任しました。当時本学科は設立3年の新生学科で全教員
が一丸となり学科の発展のため、前向きにさまざまな学務をされているこ
とを肌で感じ、私は学科が目指す方向を早く理解し協働することを目指し
ました。

まちづくりは、学術と実学の融合が重要と考え通算60名の学生とゼミ活
動をしました。研究活動の場を近郊の軽井沢町で2泊3日夏合宿を、コロ
ナ禍はwebを通じ研究で繋ぎ、造園学会関東支部大会等で5回奨励賞等
を受賞し、自らも発表をして3年次で研究手法を实践で学んでその実績を卒
研・就活に活かしてくれました。この間、軽井沢町役場等の方々大変お
世話になりました。また、UR 時代担当の建替事業の一つ「多摩平の森」
へ行き事業説明を行い、自治会の方々から生の声を伺い協働の重要性を伝
えました。原宿・表参道等のオリエンテーションやゼミ生・有志による街
歩きも良い思い出です。

在籍中多くの学生へ教鞭を執らせて頂きました。各科目の各回に思い
出が詰まっています。講義前後も含め学生の皆さんとの歓談も有意義で
あり心に響く講義を目指しました。コロナ禍にweb講義となった時には
学生は苦労されたと思いますが、今は元気になってくれている姿を見ると本
当に嬉しく思います。その時の気持ちをまち広報19号に「皆さんの可能性
は無限大」と題して自分を大切に諦めずに思いを積み重ねると夢は叶
うと、メッセージを送りました。この広報誌編集を11号から5年10巻を発
行し、春は「まちの見方・楽しみ方」について全教員の知見を披露して頂

小木曾 裕 特任教授



き、秋は「職場での活躍」のテーマで1期卒業生
から順次執筆してもらいました。両企画とも本学
科の幅広い分野の特徴と本質を読者に知って頂く
機会との思いでした。

2019年に第3回まち科海外研修同行教員とし
てドイツ・スイス・フランスでの「歴史的都市を巡る海外研修」を企画し
28名の学生と訪欧し、まちづくりの現状を知ることを目的に世界文化・自
然遺産の都市や自然に触れることができました。講義の学びとともに実際の
体験を、今後の大学での研究・勉強や卒業後の実務に役立ててくださ
い。最後になりましたが在籍中、本学科の先生方には勿論のこと、多くの
学生や学部の教職員の方々、また学生支援室の先生にも丁寧に連携してく
ださり助けて頂いたこと、この場を借りて御礼申し上げます。本学部学科
の益々の発展を心より祈念いたします。



海外研修：1979年世界遺産登録のル・ノートル設計のフランスベルサイユ宮殿の庭園にて

教員人事

■ 昇格

落合正行助教が「准教授」へ昇格（4/1）

昇格



事務員・佐藤玲子さんは、4月半ばから7月まで事務室にて業務いた
だきました。短い期間でしたが、諸般のご事情でご退職されました。
記して、御礼申し上げる次第です。

編集 後記

卒業生たちの今の姿が紙面を通して見えることに感慨深い思いを抱きました。彼らが卒業してからもうすぐ3年。学生時代の姿しか知らない彼
らの社会で活躍している様子を、時の流れの速さを改めて実感します。今、目の前にいる学生たちも、あっという間に卒業し、社会に飛び立って
いくことでしょう。その一日一日、一分一秒が貴重であり、教員として今何ができるのかを考える機会となった号でした。これからも、「今」と
いう瞬間を大切に、学生たちと向き合っていきたいと強く感じました。

（牟田）